

## 《 学部消息 》

### 教 授 会 メ モ

62年12月2日（水）臨時教授会

理学部4号館1320号室

- 議 題
1. 大学入試について
  2. その他

62年12月16日（水）定例教授会

理学部4号館1320号室

- 議 題
1. 前回議事録承認
  2. 人事異動等報告
  3. 奨学寄附金の受入れについて
  4. 教務委員会報告
  5. 企画委員会報告
  6. その他

62年1月20日（水）定例教授会

理学部化学本館5階講堂

- 議 題
1. 前回議事録承認
  2. 人事異動等報告
  3. 奨学寄附金の受入れについて
  4. 人事委員会報告
  5. 教務委員会報告
  6. 東京大学理学部規則の改正について
  7. 企画委員会報告
  8. 理学部長候補者の選出について
  9. 評議員候補者の選出について
  10. その他

62年2月17日(水) 定例教授会

理学部4号館1320号室

- |   |   |
|---|---|
| <p>議 題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回議事録承認</li> <li>2. 人事異動等報告</li> <li>3. 学士入学について</li> <li>4. 学部学生の休学について</li> <li>5. 昭和63年度民間との共同研究</li> <li>6. 人事委員会報告</li> <li>7. 会計委員会報告</li> <li>8. 企画委員会報告</li> <li>9. 臨海実験所長の選出について</li> <li>10. 地球物理研究施設長の選出について</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 分光化学センター長の選出について</li> <li>12. 中間子科学研究センター長の選出について</li> <li>13. 地殻化学実験施設長の選出について</li> <li>14. 企画委員会委員の選出について</li> <li>15. 人事委員会委員及び会計委員会委員の半数改選について</li> <li>16. その他</li> </ol> |
|---|---|

## 人 事 異 動

(講師以上)

所属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
動物	講 師	井 尻 憲 一	62. 12. 1	昇 任	アイソトープ総合センター 助教授へ
植物	講 師	廣 瀬 忠 樹	63. 1. 1	昇 任	東北大学教授へ
植物	講 師	井 上 康 則	63. 1. 1	昇 任	助手より
物理	助 教 授	十 倉 好 紀	63. 1. 30	休職更新	63. 2. 28まで
臨海	教 授	森 澤 正 昭	63. 2. 1	昇 任	海洋研助教授より

(助 手)

物理	助 手	佐 井 文 憲	62. 12. 31	辞 職	
化学	助 手	古 川 行 夫	63. 1. 1	転 任	東北大学助手より
素粒子	助 手	高 田 栄 一	63. 1. 1	配 置 換	物理学科助手より
植物	助 手	河 野 重 行	63. 1. 1	転 任	岡崎国立共同研究機構助手 より
地殻化学 実験施設	助 手	五十嵐 丈 二	63. 1. 1	採 用	
化学	助 手	江 川 千佳司	63. 1. 10	休 職	64. 12. 31 まで
物理	助 手	鈴 木 厚 人	62. 2. 16	昇 任	高エネ研助教授へ
物理	助 手	三 明 康 郎	63. 2. 16	休職更新	63. 3. 31 まで

(職 員)

物理	事 務 官	江 川 礼 子	63. 2. 2	辞 職	
----	-------	---------	----------	-----	--

## 外国人客員研究員

所属	受け入れ教官	国	籍	氏	名	現	職	研究員期間	備考
情報	後藤 教授	中華人民共和	国	丁	懐 東	雲南工学院講師		63. 1. ~ 63. 12.	
天文	祖父江助教授	ドイツ	連邦共和国	Krause	Marita	マックスプランク電波天文学研究所研究員		62. 12. 5~ 63. 3. 31	
情報	國井 教授	日	本	Watanabe	Hiroyuki	ノースカロライナ大学計算機科学科助教授		63. 5. 15~ 63. 8. 15	
情報	國井 教授	カ	ナ	Teh, Hung	Chuan	シンガポール国立大学上級講師		63. 3. 28~ 63. 5. 8	

## 理学博士の学位取得者

〔昭和62年11月25日付（5名）〕

専攻	氏	名	論	文	題	目
論文博士	小池	和彦	古典群の表現のテンソル積の分解について			
			— 普遍指標の方法を用いて —			
論文博士	佐竹	健治	1983年日本海中部地震津波の地震学的研究			
論文博士	館野	正樹	土壤微生物の増殖と維持—エネルギー論的考察			
植物学	多田	多恵子	多年生草本クガイソウの個体群動態と生活史戦略			
地球物理学	中村	正人	リシウムイオンビームの飛翔時間測定法を利用した電離層における電場測定			

〔昭和62年12月23日付（4名）〕

論文博士	白木	亮司	流紋岩質ガラスと熱水溶液間のイオン交換反応に関する実験的研究			
論文博士	中西	伸樹	マウスTリンパ球受容体 $\gamma$ 鎖の発現様式と機能に関する研究			
論文博士	水町	竜一	2次元全空間を占める非圧縮流体の粘性消滅問題			
論文博士	門野	良典	銅中での正ミュオンの量子拡散			

〔昭和63年1月27日付（2名）〕

植物学	椎名	隆	ホシツリモ原形質膜の興奮性機構に関する研究			
論文博士	野村	和正	グラフの交叉図式			

〔昭和63年2月24日付（8名）〕

論文博士	野川	宏幸	マウス胚唾液腺上皮の分枝形成における間充織の機械的作用の解析			
論文博士	福井	由理子	鳥類胚尾腺の発生過程における細胞増殖の様相			
物理学	徳宿	克夫	ハドロン・原子核反応における二粒子相関の研究			

専攻氏名	論文題目
論文博士 戸瀬 信之	第二超局所化と包含的な二重特性多様体を持つ微分方程式系
論文博士 中村 周	Schrödinger 方程式の散乱作用素の構造の研究
論文博士 榎本 陽子	惰性指数 2 または 3 の可換不足群を持つ P-ブロックについて
論文博士 古田 幹雄	ホモロジー 3 球面のなすホモロジー同境界
論文博士 小林 亮一	複素曲面上のインシュタイン・ケーラー計量と一意化

## 海外渡航者

(6ヶ月以上)

所属官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
化学助手	江川 千佳司	連合王国	63. 1. 10 ~ 64. 12. 31	準安定磁性薄膜の触媒作用に関する研究のため
鉱物助手工	藤 康 弘	アメリカ合衆国	63. 2. 27 ~ 63. 8. 31	高圧鉱物学の研究のため
数学助教授	加藤 和也	フランス	63. 3. 1 ~ 63. 8. 31	パリ第11大学高等科学研究所における研究交流のため

## 理学部長と理職の交渉

理学部長と理学部職員組合との交渉はこの間昭和62年11月26日と12月17日、昭和63年1月28日と2月16日に行われた。その主な内容は以下のとおりである。

### 1. 専門行政職俸給表適用と技術職員の組織化について

理職は、技官の専門職としての法的な職務評価の向上とそれによる待遇改善、そのため部課室制ではなくスタッフ制による組織化を要求してきたが、理学部が本部にどのような意見を上申したのか、回答を要求した。これに答えて理学部技官問題検討小委員会の宮澤委員長は、「理学部では、理学部だけで組織の単位を作り職務内容を基に組織化することが適当と考えている」と述べた。

また、理職は昨年宮澤素案に対する見解と独自の組織化案を公表し、それに対する理学部側の意見を要求してきた。宮澤委員長は、「国大協が各

大学からのアンケートの結果を3月中旬までにまとめることになっており、その結果をふまえて任期中に何らかの結果を残したい」と回答した。

### 2. 大学改革問題について

理職は、大学院充実の方策や職員問題等々の基本的問題を積み残したままの学院発足には反対であるとの立場に立ち、説明会の開催、情報の公開等を要求してきた。そしてこの間1月25日に学部長との緊急会見を行ない、大学院問題懇談会での議論の内容や今後のスケジュールについて公表を要求した。

学部長は、この問題について、「第2次中間答申を1月26日付で関口大学院問題懇談会座長から総長に提出することが同懇談会です承された。今後のスケジュールについては、今後の懇談会で検討されることになっている」と回答した。

理職はまた、今回の大学院改革の拙速な決定は

遺憾に思うという意見を述べ、理学部全構成員を対象とした説明会の開催を求めた。学部長は「説明・懇談会を2月25日に開催する予定である」と回答した。

### 3. 定員削減問題について

今回の定員削減は今年の3月から67年3月までに17名が割り当てになっていることが明らかとなった。理職は、これは重大な問題であるとの認識に立ち、理学部側がどのように対応しているか回答を要求した。

学部長は、「今回の定員削減は重大な問題であり、総長も危機感を持っており全学的に対処しているが、理学部では企画委員会でも対策を考えている」と回答した。

### 4. 昇格、待遇改善について

この間、暫定定数が明らかになった。理職は1

月のヒアリングに備えて事務官の4級昇格の要望書を提出し、善処を要望した。

学部長は、「今回のヒアリングでは色々な角度から要望を出している」と回答した。理職は高位号俸者には女性が多いことを指摘し、柔軟な対処を要望し、更に、技術系と図書系の昇格改善について要望書を提出した。学部長は、「要望書の内容をふまえて引き続き本部に要望していく」と回答した。

また、行(二)職員の待遇改善及び行(二)職員の行(一)振り替え、定員外職員の定員化、教務職員の助手化等の問題は、俸給面だけでなく、職員の士気にも影響しかねないとして理職は強く実現を求めた。

学部長は、「引き続き機会をとらえて熱心に努力したい」と回答した。

## 編集後記

今回は理学部を退職される方々、お送りする方々から25の原稿をいただきました。また昨年千葉大に移られました飯山先生からも原稿をいただきまして大変有難うございました。豊島先生学士院賞受賞のお祝い、という大変嬉しい伊庭先生の原稿とやらんで、昨年末から相次いでお亡くなりになった3人の名誉教授の先生への追悼という悲しい記事も掲載となりました。この号をもちまして編集担当交代となります。一年間、お忙しい所を快く原稿をお書き下さいました皆様、またご協力いただいた事務部の方々にお礼申し上げます。

(田賀井)